

文教・住宅都市として、 住民満足度 **No.1** をめざす

～新市長の所信表明～



今後の池田のめざす方向

今後4年間の任期において、「オール池田」を合言葉に「住民満足度No.1」を掲げ、文教・住宅都市として、教育と文化、住環境のさらなる充実に向けたまちづくりを進めます。

問い合わせ・政策企画課 ☎754・6213

1 池田のまちづくりに対する8つの柱

1 「住みやすさNo.1」

さらなる交通便利性の向上のために、交通事業者との連携を強化するとともに、バリアフリー化の推進、ユニバーサルデザインの導入促進、地域公共交通の在り方を検討します。加えて、市街地の緑化などにも取り組み、五台山や猪名川に代表される本市の豊かな自然の保全と、住環境の向上に努めます。

2 「子育てしやすさNo.1」

まずは、子どもの医療費助成の対象を18歳まで拡充します。そして、妊娠期から子育て期の切れ目ない支援のため、妊娠・出産支援事業や、産前・産後の相談支援体制の充実を推進します。

また、幼児教育・保育の無償化をはじめ、留守家庭児童会の拡充、学校給食費の負担

軽減など、さらに子育てしやすい環境の提供をめざします。

3 「教育の充実No.1」

本市の教育のカタチが全国モデルとなるよう、ICT教育の一層の拡充や英語教育環境の向上のみならず、国際理解教育の充実などの新たな取り組みについても、これまでの施策を検証しながら、挑戦します。

小中一貫教育の深化、さらなる教育機会の均等化、少人数指導の拡充、学校図書館の充実など、教育環境を整備・改善しながら、情操教育の多様化や特別支援教育の推進にも取り組めます。

教育の現場に関しても、教育委員会と連携し、学校管理職のリーダーシップの在り方、地域の方々の意見を反映した学校運営の拡大、教員の事務負担軽減や教員の資質・能力向上のための研修の充実に取り組みます。

4 「医療・福祉の充実No.1」

高齢者の見守りや認知症予防対策の強化、虐待予防ネットワークの拡充など、福祉サポートの向上をめざします。また、石橋地域における敬老会館や白寿荘をはじめとする福祉施設と、その周辺エリアである「敬老の里」の再構築については、財源確保、機能集約、民間活力の活用などについて、今後、プロジェクトメンバーを中心に協議を重ねます。

さらに、療育制度など障がい者福祉の充実、ノーマライゼーションの活動推進などの施策を検討し、医療については、子どもの医療費助成の対象を18歳まで拡充するほか、ジェネ

リック医薬品使用の啓発・広報強化にも取り組めます。

5 「健康・楽しさ No.1」

健康ポイント制度導入の効果検討、各種がん検診の助成強化、健康教育の充実、健康遊具の公園への設置などを行い、自ら健康的な生活を送り、末永く自立しながら暮らすことのできる社会の実現をめざします。

地域に溶け込み、生きがいを持って生活できるような場所や仕組みづくりのため、既存の公共施設を活用した機能整備、市民が楽しめるイベントの開催、地域行事への支援などによる、にぎわいの創出とコミュニティ力の向上を図ります。

地域分権制度については、在り方を一度見直し、「住民ニーズのくみ取り」に重きを置きつつ、持続可能な制度へと改善します。

6 「安心・安全 No.1」

地震、豪雨、土砂災害、浸水などの各種災害対策を強化するために、公共施設の避難所機能の強化、要支援者の把握・サポート向上、市街地の防火対策の推進、災害・防犯情報の効果的な発信に取り組めます。そして、これらの公助のみならず、自助・共助の意識も醸成するために、自治会および自主防災組織の機能強化をめざし、災害に強い、強靱なまちづくりを推進します。治安面においても、安全パトロール隊の活動促進、通学路の安全確保など、地域や関係機関と協働・連携して街頭犯罪対策を推進し、安心・安全なまちを確立します。

7 「活力あるまち No.1」

池田版DMOの改善と効果的な運営、高品格・高品位を主軸とした新たなシティプロモーション方針の策定、「カップブスードルミュージアム 大阪池田」へ続く遊歩道整備、宿泊施設の拡充、府道伊丹池田線のメインロード化、池田駅前の再々開発、石橋駅の立体交差化などについても検討します。

また、商工会議所とも連携しつつ、中小零細企業のための、創業や海外展開などを含めた経営相談窓口の充実など、行政の立場から創業・就労への支援を行い、働くママ・現役世代への手助けや、女性・ひとり親家庭への就業支援・サポート、キャリアアカウンセラの相談体制の構築により、女性の就労支援策の一層の拡充をめざします。

さらに、環境先端都市・スマートシティを視野に入れた成長戦略にも注力したいと考えています。構造改革特区や、国家戦略特区制度の社会課題解決型の規制改革メニューを積極活用し、先端技術産業の拠点形成、そしてそのシンボルとしての大学の創設についても検討します。また、空き家バンク制度のさらなる推進などによる空き家の利活用を含め、本市の新たな特色づくりに取り組めます。

8 「財政運営 No.1」

7つの「No.1」を実現させるためにも、行財政改革は不可避であり、財政運営の目標として、池田市行財政改革推進プランⅢの遂行に加え、経常収支比率、実質公債費比率、将来負担比率において、府内における類似団体都市

の平均を上回る水準を維持します。また、新公会計制度による効果的な財政運営と透明化を図ります。これらの目標を達成するため、出資法人の在り方の見直し、全事業の検証による財源創出、上下水道事業の経営戦略に基づくさらなる効率化、ごみ処理事業の効率化、市営住宅管理の民間活力導入、市立池田病院の経営改善、庁内機構再編によるスリム化などに取り組めます。さらに、池田市公共施設等総合管理計画をはじめとする各計画を見直しつつ、石橋地域および池田地域における拠点施設を整備するなど、公共施設の効率的な再編や、重複機能を有した施設の統廃合にも取り組み、行政サービスを向上させます。公共施設の使用料や手数料については、消費税増税なども踏まえ、各施設の適正な使用料・手数料を設定します。

さらに「身を切る改革」として、まずは市長の退職金ゼロ、市長の給与月額額の30%カットを実行します。すぐに着手可能なものもあれば、現状を精査し、最善の方策を定めた上で進めるべきものもあると考えています。早期実現に向けて検討と議論を重ね、市民の意思をより反映できる行財政運営に取り組めます。

池田市長 富田 裕樹

